

2150 | デッサン研究

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、永井研治教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星見講師、山本明比古講師、吉川民仁講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

デッサンとは、単に物の形をなぞることではなく、対象の存在と描く側の存在との関係の中で、感覚的な受容と知的な分析を通して行う総合的創造作用である。どのようなモチーフであっても、それを選んだ者の内面が反映されていて、対象を見つめることは自分自身と向き合うことでもある。

通信授業では、自分自身を投影できるモチーフを選び、時間をかけて観察し追求することで、自分自身の再発見を目標とする。面接授業では、人体（裸婦）を対象に、人間の体を生動する一つの生命体として捉え、デッサンによる新たな人体表現の可能性を学ぶ。

課題の概要

○通信授業課題「モチーフとの対峙」

1-1 日用品や野菜、果物など、身近にあるもので最も描きたいと思えるモチーフを選び、クロッキーする。

1-2 日用品や野菜、果物など、身近にあるもので最も描きたいと思えるモチーフを選び、デッサンする。また、モチーフを選んだ理由を 200～400 字で解説する。

○面接授業課題「モチーフとの対峙」

1-1 人体（裸婦）をデッサン（水彩等の併用可）または油彩を制作する。デッサンの場合は B2 画用紙または木炭紙。描画材は鉛筆、透明水彩、ガッシュ、アクリル絵具等、または木炭。油彩の場合は 20～25 号キャンバス。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『デッサン I・II デッサン研究 平成 29 年度』を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第 1 章「デッサン・油彩」、第 3 章「水性絵具」等を参照。

[面接授業]

第 1 日 午前：前提講義及び制作 午後：制作（人体を描く）

第 2 日 午前：制作 午後：制作

第 3 日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『デッサン I・II デッサン研究 平成 29 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）